

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100877		
法人名	社会福祉法人 生き活き館		
事業所名	グループホーム ケアポート生き活き館原尾島		
所在地	岡山市中区東川原361-1		
自己評価作成日	平成26年12月26日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

心の通う人づくり
 職員・利用者ともに、信頼関係のある職場作りを理念としています。
 気配り目配り孫の手介護
 痒い所に手の届く孫の手のような援助、歌い、うたを孫のような暖かい幸せを感じられる援助を介護方針としています。
 自ら進んで成し遂げる
 目標を掲げ、計画を企て、やりきる事で成果を得る、ということを社訓としています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区津高628-1		
訪問調査日	平成27年1月20日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念や介護方針をもとに支援されている様子がうかがわれました。建物の周辺環境は自然が豊かで四季折々の季節を感じることができ、市内の中心部に近くて生活に便利な地域です。近くの小学校との交流や地域での防災対策の話合いも持たれています。月2回の音楽療法では手、足、身体をリズムにあわせて動かせたり、歌を歌ったりすると利用者の表情も生き生きされるとのことでした。個別に希望する洗剤等を使用しての洗濯がなされていました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営推進会議にて地域との連携を図っている。	毎日の朝礼の時に全員で法人の理念を唱和して、実践につなげている。また理念をもとに毎月目標を作成している。今月は利用者を心から笑わせて「笑顔が見られるように」を目標に支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	イベントに宇野小学校の学童を招くなどの交流を持っている。	地域の夏祭りに参加、小学校の学習発表会の練習を見学や事業所の敬老会等に来てもらう等で地域との交流が来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当法人所有の集合住宅のサロンで介護予防教室・相談会等で認知症の方の理解や協力をお願い出来ている。 当施設の地域交流スペースでは開催出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	勉強会の講師の派遣等を提案している。	2ヵ月に1回定期的に開催して、参加者から防災訓練や感染症、高齢者詐欺等の情報をいただき、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括のケアマネより情報を提供して頂いている。運営推進会議にて協力体制をとっている。	毎月事業所指導課に月次報告を送付する等で協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を毎月開催し、身体拘束の状況や必要性などを確認している。現在は0件。	毎月身体拘束についての勉強会をしている。新人職員には禁止の対象となる具体的事例を挙げて正しく理解してもらい、ケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を毎月開催し、虐待についての調査や情報発信などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で実施している。レポートを全員提出し、理解・実践を促している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ケアマネージャから十分に説明を行い、同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて、家族会との連携を図っている。	面会時に意見を頂けるような雰囲気作りをしている。また意見をいただいた場合は現場に戻して一緒に考え、改善に向けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を毎月開催し、職員からの議題などを話し合っている。	毎月の職員会議時に防災時の利用者の状態、残業のこと等意見や提案を聞き、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じ、主任・施設長と面談を行っている。 評価規程を設けて評価し、賞与や給与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月テーマを決めた内部研修を開催し、介護知識の向上を図っている。 外部の研修は職員掲示板にて募集し、申し込みに応じている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネージャや看護師については出来ているが、介護職ではあまり出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常的な会話から要望を見つけ、新たなケアにつなげる事が出来ている。 例：外出の要望がある方に対し、職場の物品買出しに同行して頂く機会を設け、定期的な外出が出来るようになった。(H26.07～)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族来館時に近況を報告し、コミュニケーションを図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族からの要望に対して、医療職などとも連携・相談することで適切なサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや配膳などの出来ることは協力して行い、職員と利用者で助け合える場面を作れている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とコミュニケーションを図り、信頼関係を構築できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	家族以外の人間関係や馴染みの場所については、支援できていない。	友人や知人、家族の面会また家族と一緒に馴染の場所に出かける等で関係が途切れないうに支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性などを考慮して座席配置を調整し、円滑な関係が保てるように配慮している。職員からの声かけで話題を提供し、利用者同士のコミュニケーションを促進している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からの相談があれば対応させていただきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者やご家族の意向を把握するよう努め、アセスメントを繰り返し意向が反映できるように検討しています。	自宅で生活されていた状況を把握し、同じような暮らしが出来るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントにおいてご利用者やご家族からの情報収集を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態や日々のケアを通じて一人ひとりの現在の状況を把握するよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護職や医療職など、日常的に接する職員が課題を見つけ、ケアに反映できている。実際のケアは出来ているが、実施する職員が介護計画を把握しないまま行っていることがある。	本人、家族や必要な関係者と課題や意見を話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	これからも関係者との話し合い作成した介護計画をもとに、モニタリングをし全職員が把握される事を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態とケア実施後の様子などを個別に記録し情報の共有を行いプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じたサービスが提供できている。外部サービス(デイケア)の利用など要望に応じて対応できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外部サービス(デイケア)の利用など要望に応じて対応できている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	多くの方が施設の嘱託医をかかりつけ医として利用され、月2回の回診を受けられている。入所以前からのかかりつけ医を継続されている方もおり、定期的を受診されている。	ほとんどの方が嘱託医の回診を受けられているが、入居前からのかかりつけ医を受診されている方には添書を持参してもらい、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に看護師へ、回診では医師への報告と相談が実施できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後のお見舞いに伺った際に、担当看護師や地域連携室のケースワーカーと連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化する前にご家族や医師と相談し対応している。終末期に向けた支援は法人として検討していません。	入居時に重度化等に向けた支援の方針を話し合っており、早い段階から本人、家族等に事業所でできることを説明して支援している。法人として看取りは今のところ考えられていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルを作成している。内部研修にて訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成している。毎月災害対策委員会を実施し、防災設備の点検などを実施し人格を尊重したケアに努めています。	年3回消防署の方の協力で、避難訓練を実施して利用者が安全に避難できる方法を身につけるよう取り組んでいる。災害時には地域での避難場所や施設の貯水層の利用を提案している。	今後とも災害対策を継続されて、利用者の安全を心がけ、地域との協力体制を築いて下さい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	虐待防止委員会にて、声かけの内容やスピーチロックについての調査や情報発信を実施して人格を尊重したケアに努めています。	常に利用者の行動を抑制する言葉とはどういふことがあるかを話し合い、日々支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日中は体操やレクリエーションを基本としながらも、散歩されたり居室で過ごされたりと自由に活動されている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課を決めて過ごしていただいておりますが、ご利用の希望に沿って支援するよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類を整理し、本人が着たい服を選び易くしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者で協力して配膳を実施している。定期的に食事の好みのアンケートを実施してメニューに活かしている。麺が嫌いな方に対して、毎週の麺の日に別メニューを提供している(H26.12～)	食事は複合施設の栄養士の献立により調理されたものを、職員と一緒に手伝いのできる方が配膳や片づけをして食事が楽しむことができるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量の記録を実施し、状態把握を行っている。体調不良や食欲不振など状況に応じてスポーツドリンクや高カロリー食品などの提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者ごとの排泄パターンに応じた声かけを行い、失禁を予防している。全利用者がトイレにて排泄できている。	排泄パターンを把握して、トイレでの排泄が出来るよう支援している。夜は職員が2時間おきに訪室するが、覚醒がしっかりされていればトイレ誘導もする。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部のマッサージ、漢方のお茶や乳酸菌飲料、薬などにより排便コントロールを実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間は本人の希望により調整ができている。入浴日についてはユニット単位である程度決まっている。	入浴は週3回を予定しているが、体調や本人の希望で入浴出来ている。拒否の方には言葉かけの工夫で支援している。洗濯物は一人ひとりの希望の洗剤で洗っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを整えるために日中のレクリエーション等への参加を促し、夜間に良眠して頂けるよう配慮している。また、日中に昼寝をする方や、深夜まで起きている方など、体調や習慣に応じた休息にも対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルを作成し、確認をしっかりと行いながら、事故の無いよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや配膳などの手伝い、歌や計算問題などのレクリエーション、新聞購読など個人に応じた楽しみを持って生活されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	後楽園へのお花見などのイベントにおける外出、物品買出しへの同行が出来ている。日常的な外出は出来ていない。	毎月の買い物や行事での外出はしているが、日常的には施設の敷地内に季節の花が植えてあるのを見て話をしながら散歩をしている。遠くへは家族と一緒に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の持ち込みはしないよう契約時に説明しており、使用できる環境ではありません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参されている方は自由に家族や友人と通話されている。また、希望があれば施設外線を提供している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁の掲示物は利用者と一緒に手工芸で作成し、季節感のあるものを掲示している。湿度計を用いて最適な冷暖房になるよう調整をおこなっている。	共用の空間は快適に過ごせるよう、次亜塩素酸ナトリウム水入りの加湿器を利用している。利用者と職員と一緒に作成した季節感のある手工芸も飾り居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の相性などを考慮して座席配置を調整し、円滑な関係が保てるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けはクローゼットのみで、タンス等は馴染みのものを持参して頂いている。	使いなれた桐たんす・位牌・手作り人形等持参して本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。それぞれの居室にも加湿器の設置がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には各自の表札があり、トイレには大きな張りの紙をするなど、利用者が自分で判断して行動しやすいようにしている。		